

箸墓古墳と大神神社歴史散策

～大和は国のまほろば～

2021-10-15

シニア自然大学校自然と文化科企画委員会

コロナ禍の緊急事態宣言で外出自粛の日々が続きました。宣言解除後の 11 月 26 日は、6 月に中止した「箸墓古墳と大神神社」を再実施します。記紀万葉に語り継がれた古の歴史に触れながら、歴史散策をしたいと思います。

- 箸墓古墳は桜井市箸中にある古墳。3 世紀では国内最大級の集落遺跡である纏向古墳群の東南部に位置する。纏向は邪馬台国大和説の最有力候補地であり、初期ヤマト政権発祥の遺跡として我が国の生い立ちにかかわる重要な遺跡です。箸墓は大型前方後円墳としては最古の古墳とされ、以後、継続する大王墓の先駆と言われている。被葬者は明らかではないが宮内庁により、「大市墓」として 第 7 代孝霊天皇皇女の倭迹迹日百襲姫^{やまとととひももそひめのみこと}命の墓に治定されている。邪馬台国卑弥呼の墓と言う説もある。

- 大神神社は「古事記」「日本書紀」に大物主大神^{おおみわじんじゃ}が国造り成就の為、三輪山に祀られたと記載され、直接に三輪山に祈りを捧げる、神社社殿が成立する以前の原初の神祀りの様を今に伝えてる我が国最古の神社とされている。
大神大物主神社→三輪明神→大神神社と改名された。

記

日時：2021 年 11 月 26 日(金) 09:45～15:00
(前日 17:00NHK の天気予報、奈良北部 午前・午後降水確率 50%で中止)

集合場所：JR まほろば線巻向駅 踏切を渡り直ぐの広場
三密を避け 2 班に分ける。1, 4 班 集合時間 09:45
2, 3 班 集合時間 10:15

ルート：巻向駅～纏向遺跡～箸墓古墳～ホケノ山古墳～桧原神社(昼食)～
狭井神社～大神神社～大神神社二の鳥居前～三輪駅解散 15:00頃
緩やかな上り下りがある山裾の古道を歩きます(全行程約6km)
(昼食後の桧原神社からは山野辺の道)

ボランティアガイド：「桜井市観光ボランティアガイド」☎0744-48-3110
ガイドは10人を予定、1, 4 班で 5 グループ、2, 3 班で 5 グループに分ける。
(コロナ禍で奈良県並びに桜井市の指導は参加者5～7 名に一人のガイド)

持ち物：弁当 飲料 雨具 その他各自必要な物

【注 意】

緊急事態宣言は解除されましたが、コロナ禍の中での行事です。
ワクチン接種完了の方を含めて全員マスク着用をお願いします。
また行動中はソーシャルディスタンスをお願いします。
また当日微熱や体調が優れない場合は参加を見合わせてください。

【参 考】 JRまほろば線 時刻表 30分に1台しかありませんのでご注意ください。

- 1, 4班 JR 奈良発 9:08 ・・JR 巻向着 9:29 JR 桜井発 9:39 ・・ JR 巻向着 9:44
2, 3班 JR 奈良発 9:41 ・・JR 巻向着 10:02 JR 桜井発 10:09 ・・ JR 巻向着 10:14

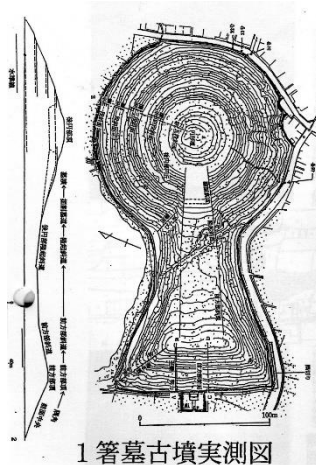


散策マップ 行程図

・纏向遺跡群

この地域は弥生時代から古墳時代にかけて、初期王権が誕生したと考えられ邪馬台国大和説の有力比定地。大型前方後円墳がならんで位置する地であり、王権が営んだと考えられる都市的な大集落(纏向遺跡)が存在する地でもある。

(1) 箸墓古墳(陸墓)



1 箸墓古墳実測図

邪馬台国の女王卑弥呼の墓という説もある箸墓古墳は

第7代孝靈天皇皇女の倭迹迹日百襲姫命^{やまとととひももそひめのみこと}の大市墓とされ、宮内庁の陵墓指定地。

全長：280m 後円部径：155m 前方部長：125m 前方部幅：147m 後円部5段、前方部4段の築成。

巨大な前方後円墳で、我が国最初の巨大古墳。

築造は3世紀中葉の時期とされる。

素粒子ミュオンを使って、内部の様子を把握する調査・研究が進められている。「陵墓」でミュオンを使った調査は初めて

1992年の前方部南側の調査結果では、この古墳は大半の封土を盛土した可能性が高いことが判明している。周濠については幅約10m程度の周濠と、その外側に基底幅15mを越える大きな外堤が巡っていた可能性あり、外堤の所々には渡り堤が築造当初からあったと考えられる。

埋葬施設については竪穴式石室と思われる。



(2) ホケノ山古墳(国指定史跡)

箸墓のすぐ東に位置する前方後円墳で全長約80m、前方部長約25m、高さ3.5m、後円部3段築成で径約55m、高さ8.5mで前方部を南東に向け、後円部側に周濠状遺構が巡っている。纏向遺跡の中では唯一葺石を持つ古墳だが埴輪はない。埋葬施設は大和の古墳では初の事例となる石囲い木槨で中央長さ5mの刳拔式木棺が後円部に収められていた。築造時期は3世紀中頃と考えられている。



(3) 辻地区の建物群跡(国指定史跡)

弥生時代の拠点集落をはるかにしのぐ規模の集落で、弥生時代は過疎地といえる地域が、3世紀前半に突然、大溝(運河?)や軸線や方位を揃えて配置された4棟の特殊な建物、導水施設など都市的な内容を持つ集落が形成され、どこにもない集落。搬入土器の量が半端でなく、関東以西、九州以東から



搬入されている。集落の形成と周辺の大型前方後円墳形成は軌を一にしている。以上のような状況は纏向遺跡が初期王権の中核的地域であった可能性を示唆している。この地区では平成 20 年度から学術調査がすすめられ、平成 25 年には太田地区とともに国史跡の指定を受け、現在は公園整備を行っている。

・山の辺の道

(4) 倭建命歌碑

日本の景観百選にも選ばれる井寺池。その畔に文豪・川端康成の原稿文字で書かれた倭建命の歌碑がある。倭建命は『古事記』や『日本書紀』に登場する悲劇の英雄。碑文には東国平定からの帰途、病魔にむしばまれた倭建命が力尽きる前、故郷の大和を偲んだ歌が刻まれている。ここに立つと手前に箸墓古墳、遠くに二上山が見渡せ、振り返れば、池の水面に三輪山が映る。



(5) 檜原神社

あまてらすおおみかみ
天照大御神を初めて外にお祀りした場所で、天照大御神が伊勢神宮に遷った後も「元伊勢」と呼ばれ、信仰を集めてきた。大神神社の摂社である檜原神社は、本社と同様に三ツ鳥居みつとりいが設けられ、境内からは遠く二上山が望める。ちなみに、春分の日と秋分の日付近には、二上山の峰の間に日が沈む夕景を見ることができる。



(6) 山の辺の道碑

檜原神社から南へ数分のところの「山の辺の道」の碑は、ハイカーの目印となる道しるべ。石碑の文字は、文芸評論家の小林秀雄による。

(7) 玄賓庵

かんむ
桓武天皇から厚い信任を得ていた玄賓僧都げんぴんそうずが、俗世を離れて隠棲したと伝わる寺。境内のお堂に本尊の不動明王像（重要文化財）などがお祀りされ、玄賓と三輪の神様との物語を描いた、世阿弥ぜあみ作と伝わる謡曲「三輪」の舞台でもある。



・大神神社

大和国の一の宮、大神神社は、三輪山を
き き そうし
御神体とし記紀に創祀に関わる伝承が語ら
れる、日本最古の神社といわれている。祭神
おおなむちのかみ すくなひこのかみ

は大物主大神で大己貴神と少彦名神を合
わせて祀る。拝殿は寛文四年(1664年)四代
將軍徳川家綱が再建したもので重要文化財
に指定されている。拝殿の奥正面には「三ツ
鳥居」と呼ばれる大小の鳥居三つを一つに
組み合わせたような形の鳥居があり重要文化財に指定され、「三ツ鳥居」を通して三輪
山を拝む古代の神まつりの形を今に伝えている。大三輪の神は国造りの神、また医
薬、酒造、方除等人間生活全般の守護神として、大和の国一の宮、三輪明神として、
地元では「三輪さん」の名で親しまれ、近年はパワースポットとして若い人たちにも人気
がある。三輪の町はこの大神神社とその摂社、末社などを中心に門前町として、その
歴史文化の風合いを残した町並みが残されている。

境内の「ササユリ園」は、今年は休園。「なで兎」も現在一時中止

・三輪山

奈良盆地の南東部に位置する三輪山は、標高が467mのなだらかな円錐形の山で、
日本最古の神社といわれる大神神社は、この三輪山をご神体とし、「記紀」には

みもろやま みわやま みもろのおか
御諸山、美和山、三諸岳とも記されている。

大和に暮らす人々にとって神の山として、精神的な支柱になっている山である。古く
から、神の降臨する山として崇められており、三輪山の山中の各所に神霊の依り代とし
いわくら
て磐座があり、古代巨石信仰の面影を残し他にも祭器が出土している。

・狭井神社

大神神社の摂社、狭井神社は、さいにいますおおみわのあらみたま
狭井坐大神荒魂神社とよばれ、本社(大神神社)の
荒魂を祀る神社。垂仁天皇の時代に創祀され、延喜式神名帳にも記載されてる古社

である。四月十八日に営まれる鎮花祭は、俗に
薬まつりともいい、起源は崇神天皇のとき、全国
に疫病が流行した時、おおたねのみこと
大直禰子命を召して祭
神の大物主神を祀ったところ、疫病が止んだこと
にあるといい、病氣平癒の神として信仰され

はなしずめのやしろ
花鎮社、俗にシズメさんとも呼ばれている。

また拝殿の左後ろにある井戸は、「狭井」の名
前の由来になっており、太古からの薬水と称し、
この霊泉は万病に効くと伝えられ、多くの人が
訪れている。



以 上